

第 57 回 交通政策審議会観光分科会 事前意見書

株式会社コングレ 武内 紀子

1. 今年度実施事業の継続性・改善点について

「国際観光旅客税の使途に関する基本方針等」に照らし、今年度実施事業（令和 8 年度 1,300 億円規模）の継続性と改善点につきまして、以下の通り考えます。

- 単年度の予算消化（いわゆる PL 的な発想）にとどまらない「中長期的な投資対効果」の見極め：

今年度より拡充された旅客税財源による事業につきましては、単年度での予算消化や一時的な需要喚起策（単年度の PL 的な考え方）に終始することなく、将来にわたる持続的な経済波及効果や投資対効果（ROI）を見極めて執行・評価を行うことが極めて重要です。効果が不透明な継続事業や、単なる維持のための補助としてこれに依存する事業については、毎年度の厳格な評価と、それに伴う「洗い替え」または自走策への転換が必要です。

- インバウンド投資による「国内観光・国内需要」への相乗効果の重視：

旅客税を活用した対策については、その財源の性格から、ほぼインバウンドを対象としていることに懸念があります。挙げられている受入環境整備や交通インフラの機能強化、コンテンツ創出にあたっては、インバウンドのみならず、観光の大半を占める日本人国内旅行者の利便性向上や国内観光の魅力増進、活性化にも、合わせて寄与すること、双方に良好な波及効果、還元をもたらす形で運用が徹底されることを期待します。

2. 今後対応すべき課題と対応の方向性について

今後対応すべき課題および令和 9 年度概算要求（1,900 億円）等に向けた施策の方向性につきまして、個々の課題や横断的観点から以下の通り提案いたします。

- MICE の戦略的誘致・開催促進（持続的価値創出の観点から）：

MICE は単なる一時的な集客や観光にとどまらず、日本の諸戦略や開催地の地域産業・ビジネス基盤を強靱化し、先々まで持続的な利益をもたらすための重要な「国

家戦略ツール」となり得るものです。毎年度の「洗い替え」を含む評価の対象としては難しい部分もありますが、単なる開催助成を超え、産業振興や国際的ステータス向上に直結する開催手法・支援体制に対し、継続的に取り組むべきと考えます。

- **地方誘客を支えるハブ空港接続と二次交通基盤の強化：**

地方誘客の推進と需要分散（特定の都市・地域への集中是正）を実現するため、羽田・成田・関西空港等への対策とそれらハブ空港からの国内線接続、二次交通の充実を、引き続き後押しすべきです。また、地方部での「観光の足」への対策が「生活の足」の保障にもつながるよう、MaaS や地域交通 DX をはじめ、持続可能な二次交通基盤構築も、優先的に進めるべき事項と考えます。

- **各省庁施策との「横断的連携」による観光の戦略産業化：**

観光は、各省庁の主要施策や産業振興と結びつくことで真の「戦略産業」となります。それぞれの省庁からあげられた観光とその他の施策を横断的に見て、観光を結節点としながら、さらに広く国の戦略につながることは、観光の戦略化にも寄与するものと考えられます。

いくつかの例を以下にあげます。

- **文化・食・コンテンツ産業：**

文化財の鑑賞にとどまらず、食文化・伝統工芸や、アニメ・ゲーム等のコンテンツ産業と観光を掛け合わせ、他産業全体の活性化へ波及させること。

- **大規模イベントとレガシー創出：**

大阪・関西万博から GREEN×EXPO 2027 へとメガイベントが連続する好機を最大限に活かし、単なる一時的集客にとどまらず、国・地域のシビックプライド向上や持続的なレガシー創出へ繋げること。

- **CIQ（出入国・通関）の高度化とビジネス客誘致：**

出入国・通関の円滑化（CIQ 高度化）により滞在時間を創出するとともに、法務省が進める「国際仲裁（紛争解決拠点）」等の施策と連携し、高付加価値層やビジネス客を引き込む体制を強固にすること。

以上